

研究所の日常風景



研究所の日常には、仕事とともにランチや夜の飲み会、文化活動やスポーツ、おしゃべり等々があります。一年には、変化をともしつつ繰り返されるサイクルがあります。市ヶ谷時代の思い出も交えながら、そんな日常の風景を切り取ってみたいと思います。

研究所の一日



朝夕、タイムリーダーにタッチ



カフェテリアでのランチ

木曜日の昼はアジ研パワーランチ



打ち合わせの様子



リフレッシュコーナーでの雑談

火曜日の 15:30 からは企画調整会議

水曜日の 15:00 からは地域研究会



荒木町の神社



パルプラザの中華料理店

市ヶ谷時代の夜

お酒の飲み方は人それぞれ。今からご紹介するのは飽くまでもアジ研の部分描写、私の愛すべき先輩とその愉快的仲間たちの話です。

市ヶ谷のビルから靖国通りを跨いで数分のところに、「その店」はありました。いわゆるスナックというカテゴリーの飲み屋です。7～8人も入れればいっぱい密な空間。お年をめした、決して愛想がいいとはいえないママさんがカウンターに1人。夜な夜な先輩達はそこへ赴きます。ひたすら飲んでカラオケでシモな替え歌を謡い、学問について延々と議論し、いずれは怒鳴り合いとなって、時にはフィジカルな展開を見せる。

この頃になると、ママさんの「魔のメロン」と呼ばれるスペシャルな一品が出てきます。ただのメロン・スライスなのですが、お値段が「えっ!?!」...でもみんな、酔っ払っているのもくもくと食べます。酔っ払っているのでツューに会計をします。価格原理が全く働かない異空間。そしてまた、その店に足を運ぶのです。

思い出と呼ぶにはあまりに奥深い、市ヶ谷時代のブラックホールでありました。(猪俣哲史)

出勤簿とタイムリーダー

市ヶ谷時代、職員は出退勤の時間を各自、出勤簿に書き込み、それを上長が承認しました。管理が多少、ルーズであったことは否めませんが、幕張の新施設にはタイムリーダーが設置され、出退勤時間は厳密に管理されることになりました。しかし、話の続きがあります。

2010年度から、研究職に対して裁量労働制が導入されました。大雑把に言えば、何時に来て何時に帰ってもよく、研究所にいる時間の長短は問われなくなりました(早朝および夜間のみは不可)。導入は事務部門から提案されました。研究職の時間休取得があまりに多く、事務処理がパンクしたからです。

研究職を時間で管理することはかくも難しいのです。代わりに業績が厳しく評価されています。

ランチの思い出

曙橋時代と海浜幕張時代、両方を知る職員も少なくなりました。社会人になって先輩達に付いて行く曙橋時代のランチは、とても楽しいものでした。地形的にすり鉢の底にあったアジ研から新宿通りに向かっては上り坂です。明治時代には名の知られた花街だった荒木町は、路地裏にある飲食店や神社、まどろむ猫の姿がその名残を感じさせてくれました。動向分析部の歓迎会で使った某すき焼きチェーンの四谷店は、ゆかしい二階建ての日本家屋で、庭園には見事な桜がありました。曙橋時代の記憶のイメージは春と桜です。

海浜幕張が美しいと思うのは夏です。駅に降りると日差しが強く感じられます。飲食店に囲まれた広いウッドデッキが目印のパルプラザは街に相応しいと思いましたが、今は駐車場に変わりました。連れ立ってよく行ったのは、千葉の魚を食べさせてくれる店と中華料理店です。

10年前の東日本大震災の時、広いスペースを持つ中華料理店は、帰宅難民となった多くの人に、場所と食事を無料で提供したと聞きました。近くのホテルの系列だったそうで、その責任者は、今はホテル内にある中華等レストランの責任者となり、たまに会えるのが嬉しいのです。

所内にある食堂の話をしませんが、コロナ禍でも最大限の努力を払ってくださったアジ研食堂の皆さんには、心から感謝しています。多くの人が集う日が、一日も早く戻ってくることを祈っています。(村山真弓)

囲碁の思い出

研究所には10人前後の碁打ちがいました。昼休みには三々五々集まり、盤上で烏鷲を戦わせたものです。創立記念日には木谷道場からプロ棋士を招聘しての指導碁、また通産省や大和証券との団体交流戦などが思い出されます。(山本一巳)

日本酒の会

日本酒の会の原点は、2017年5月のアジ研ビブリオバトル(TOPIC 13参照)で、獺祭の銘柄が有名な旭酒造の桜井社長が執筆した『逆境経営—山奥の地酒「獺祭」を世界に届ける逆転発想法』(ダイヤモンド社、2014年)を取り上げたことでした。ビブリオバトルでは敗れましたが、参加されていた数名の方々と後日、日本酒を飲みに行こうという話になりました。そこから日本酒愛好家を中心に、3～4ヵ月に一度くらいのペースで日本酒と戯れています(コロナ禍では休止)。

アジ研の日本酒の会は単なる飲み会に非ず。参加者は日本酒の味を評価、分析し、独自に数値化するなど、さまざまな角度から日本酒を楽しむことを目的としています。日本酒に興味がある方はいつでもウェルカムです。会費は不要です。(今井宏平)

茶道部



市ヶ谷時代から和室(茶室)があり、茶道部の歴史は長いと言えます。流派としては表千家と大日本茶道学会が長く活動していましたが、今では廃部となりました。後発の裏千家が現在も活動し、週2回のクラスが設けられています。(池上寛)

華道部



アジ研華道部は昭和38年(!)、市ヶ谷のアジ研創立間もない頃よりいけばな草月流の金子紫泉先生をお招きし、昼休みに活動しています。いろいろな部署の職員や海外からの客員研究員やご家族も参加されるなど、アジ研らしく多彩に活動を続けています。(山口真美)

アローズに捧げたアジ研生活

入所した1995年、当時の通産健保組合が企画した野球大会に参加するため、望月克哉さん、錦見浩司さんに誘われて参加し復活したアジ研野球部・アローズ。その年の大会準優勝からアジ研での二重生活が始まりました。部を超えた交流の場にもなり、昼練や合宿、私設のリーグ参加など「アジ研野球部採用」の面目躍如、笑。再度復活を期待!(中山和郎)



9月頃から翌年度の課題原案の募集が始まる。科研費の応募も



アイデアは秋に開講



7月1日は創立記念日。アジ研発展途上国研究奨励賞が表彰される



近くの八重桜



3～5月は人事評価の季節



研究所に飛来した鴨たち

2月20日頃、研究会成果の提出の締め切り



新年のかるた会

12月28日は仕事納め



納会のフライヤー

研究所の一年